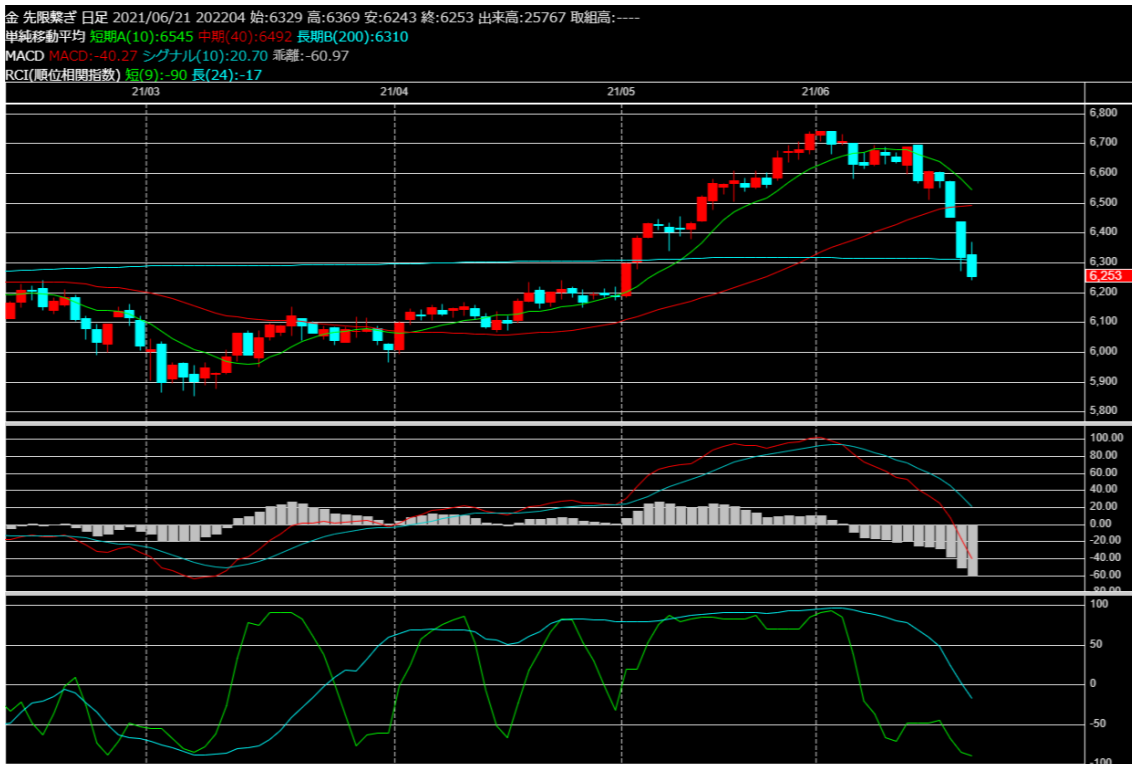


## <金標準、大勢は戻り売りで 6100 円へ>



(出所：オアシス)

FOMC でパウエル FRB 議長は「テーパリングの協議開始の協議を行った」と苦しい言葉を使い説明している。また FOMC メンバー18 名による経済予想ではドットチャートで 2023 年末までに最低 1 回以上の利上げ予想が前回の 7 名から 13 名に増加し、2021 年の据え置きの不働の 11 名が 5 名まで減少するなど、ハト派の減少が市場を驚かせている。

そのため 8 月 26 日～28 日に掛けてカンザスシティ連銀主催のジャクソンホールで開催される FRB シンポジウムでのテーパリングの協議開始の思惑が外れ、2 ヶ月前倒しの発表にリスク逃避の動きを強めた事から、金標準先物は FOMC を材料に 6564 円から週末には 6243 円まで下落するなど 2 日間で 321 円の下落幅を示している。

ただ市場は、パウエル FRB 議長のテーパリングに伴う開始時期や規模の縮小幅の詳細は不明の状態、既に利上げを織り込む動きを見せており、一部では行き過ぎた反応も見受けられ目先は 6369 円までの自律反発が予想される。

(2021 年 6 月 20 日記載)

## <テクニカル>

6 月に入り高値が止まった事から MACD や RCI (短期・長期) では、下げ基調に転じた動きを示しており、依然と反転を示すクロスサインの発生は示していない。ただ MACD の MACD とシグナルの乖離を示すヒストグラムが拡大し、RCI の短期が -90% に届くなど、売られ過ぎた動きも示しており、一時的な下げ止まりからの自律反発には注意したい。